

## 総会報告

連絡会では昨年11月26日に総会を開催しました。今季の活動として

- ①2015年12月フクシマ復興応援のためのウクライナ・キエフから来日した舞踏団の公演・交流会支援
- ②除染方法の模索～区内でゼオライトによる放射性物質の吸着試験。
- ③電力自由化学習会～自然エネルギー普及の電力会社選択のための情報。節電・太陽光パネル設置推奨の確認
- ④区内空間線量測定・土壌汚染測定の実施
- ⑤全国規模の測定プロジェクトとの連携（東日本土壌ベクレル測定プロジェクト・SafecastTileMap）
- ⑥測定結果から対策を提起～区内の汚染がまだら模様であり、より詳細に測定する必要があること。南部に比べ北部が比較的高いことを確認。高いところは掃除と表土をはぐのが効果的を報告しました。

また、総会では石倉克彦世話人の福島県南相馬市での民間除染ボランティアのお話もお聞きすることができ、実際に見て感じることの大切さを感じました。

皆さんのご意見をぜひお聞かせいただき、地域でできる取組みを行っていきます。マンパワーをお貸しください。会計は前期繰越金が6万円程となっていますので、会費の納入をよろしく願いいたします。

今年は、4月に江戸川区で甲状腺検診が実施されます。また7月に放射線被害の証明に役割をはたすであろう、疫学の学習会を企画中です。ぜひご参加、お手伝いをお願いいたします。



## 映画『日本と再生』上映会

「脱原発弁護団全国連絡会」の共同代表として日本全国の原発差止訴訟の先頭に立って活動するなど脱原発に向けて奔走し、ドキュメンタリー映画「日本と原発」シリーズも手がけた弁護士の河合弘之が、環境学者の飯田哲也とともに、各国の自然・再生エネルギーの実情を知るため世界を旅した様子をカメラに収めたドキュメンタリー。

- 日 時：3月21日(火)18時30分より(受付18時～)
- 会 場：四谷区民センター9階 大ホール  
〒160-8581 新宿区内藤町87番地

- 参加費：事前予約1000円/当日1200円※料金は当日支払い
- 申込み：イージーパワー(株)ホームページ・専用フォームから  
<http://egpower.co.jp>
- 主 催：イージーパワー(株)/ グリーンピープルズパワー(株)
- 連絡先：03(6274)8660

### 連絡会だより 第22号

〒124-0024 東京都葛飾区新小岩1-22-10  
トーアファンシービル4階 江戸川法律事務所気付  
さようなら原発江戸川連絡会  
TEL 03-3653-7643 FAX 03-3653-7606

2017  
3.20  
代々木公園

あれから6年、でも、決して私たちは、フクシマを忘れない！

福島原発事故から6年。福島では、8万人近い被災者が、いまでも苦しい避難生活を強いられ、被災者は、子どもたちの甲状腺がん、難産と補償打ち切り、中間貯蔵施設、労働者被害などの問題が山積する中で悩み苦しんでいます。また、政府は、福島原発の廃炉などの事故処理費用を21.5兆円と試算し、費用の一部を電気料金に上乗せして、消費者にツケを回そうとしています。安倍政権は、原発の再稼働、核燃料サイクルの推進、原発輸出を掲げ、原発推進を強行しています。しかし、高速増殖炉「もんじゅ」は廃炉に追い込まれ、核燃料サイクルの推進が危うくなっています。原発再稼働も、市民の強い反対の前で進もうと進んでいません。フクシマの被災者と連帯し、原子力政策の根本的転換を迫りましょう。

2017年3月20日 ⑤春分の日  
代々木公園 (代々木公園(原宿駅)・東武東上線代々木駅(有明線)・山手線代々木駅(有明線)・山手線代々木駅(有明線)・山手線代々木駅(有明線))

11:00 フース間店 (けやき並木)  
さようなら原発ライブ  
李政亮さん、板橋文夫さん、シタラムータ、  
船 博さん、中川五郎さんほか

13:30 発表 司会 木内みどりさん (俳優)  
落合恵子さん (作家)、鎌田慧さん (リポライター)  
河合弘之さん (弁護士)、福島現地、福島避難者、  
被爆労働者、フクシマ連帯キャラバン、青森からほか

15:00 デモ出発 旗号：さようなら原発、脱原発、脱原発、脱原発、脱原発、脱原発  
※ステージ上のトークには手話通訳があります。

代々木公園  
会場

代々木公園  
会場

主催：「さようなら原発」一千万署名 市民の会  
内藤元人 大江健三郎 高田孝子 鎌田慧 飯田哲也 澤村久枝 瀬戸内政樹  
さようなら原発100万人アクション事務局  
東京都千代田区有明3-2-11 連絡先：03-6274-8660 FAX 03-6274-8660  
E-mail sayonara\_nukes@gmail.com <http://sayonara-nukes.org/> (「さようなら原発」で検索)

## ●さようなら原発江戸川連絡会ニュースレター

# 連絡会だより

連絡会だより第22号

2017年3月8日

●発 行 さようなら原発江戸川連絡会  
〒124-0024 東京都葛飾区新小岩1-22-10  
トーアファンシービル4階  
江戸川法律事務所気付  
TEL 03-3653-7643 FAX 03-3653-7606  
E-mail sayonara\_g\_edogawa@yahoo.co.jp

## 震災復興支援で南相馬に通い続けて

石倉克彦(連絡会世話人)

私が平和運動にかかわり始めたのは1972年秋も深まりつつある時期。ベトナム戦争終了間際、M48戦車輸送阻止闘争が行われていました。大学内で撒かれていたビラを見て初めてデモに参加しました。翌1973年1月ベトナム和平協定締結。その年の8月に広島長崎で開かれた原水禁世界大会に参加した際見学した、長崎の原爆資料館の訪問が私のその後の生き方に大きな影響を与えました。

「原爆無脳症」の表示のあるガラスの容器にホルマリン漬けになった死産の胎児。二度とこんなことがあってはならないと活動してきましたが、自分の能力不足故、反核で仲間を説得することができませんでした。

地震大国の日本列島、そして無責任や自己保身を克服できてない今の人類に核は制御できない、いつか日本が世界が破滅するような大事故が起これると思っているが、原発反対を言うとかじゃあ電気使うなどと言われ、それを説得しきれない自分が情けなく、いつしか働きかけるのをやめてしまいました。そして起こった3.11。後悔の念で始めたのが南相馬でのボランティアでした。

あれだけの高線量のところに戻ることを支援することが正しいのか。国や東電を利す

ることにならないか。これが正解と思ってやっているわけではありませんが、故郷を追われて避難している年寄りが、孫や子と離れ、それでも俺はここで死にたいといわれたとき、放射線量が高いからやめた方がいいとは言えませんでした。

前回ボランティアに行った際も南相馬市内の床屋に行きましたが、担当した方はご夫婦ともに南相馬の出身で最近避難先から戻られたそうです。しかし友人には奥さんが福島の出身ではなく、帰還を嫌がり別居、そして離婚となるケースが多いとのことでした。

健康破壊は言うに及ばず、自然を破壊し「故郷」を破壊し、人間関係を破壊する原発をこの地球から葬り去るまで、どんな困難があっても揺るがず行動するために、時間と体力が許す限りこだわり続けたいと思っています。また、時折何故ボランティアに来ているのかの話が出る時が有ります。その時気づいたのは、自身が阪神大震災や中越地震の被災者で、ボランティアに助けられた恩返ししがたくて来ますと言う方が何人もいらっしまったこと。『絆』が単なる言葉ではなく、生きたものとして感じられました。

## ●連絡会だより22号 もくじ

東日本大震災復興支援で南相馬に通い続けて  
石倉克彦(世話人)

甲状腺エコー検診(エコー検診)開催します!  
石倉留里子(世話人)

えどがわ市民発電プロジェクト「えど・そら3号機」が完成!  
山崎求博(世話人)

総会報告  
岡田隆法(世話人)  
映画「日本と再生」のご紹介

連絡会では、手伝いいただける方を随時募集中です。カンパも大歓迎です。  
○郵便振替 10140-92254391  
※ゆうちょ銀行の場合は「018支店」「普通9225439」  
○三井住友銀行 新小岩支店 普通7399408  
さようなら原発江戸川連絡会 鈴木篤



# 甲状腺エコー検診(エコー検診)開催します！

石倉留里子さん(連絡会世話人)



福島原発事故から6年。事故時に放出された「放射性ヨウ素」を主原因とする、小児甲状腺がんの発症率が高くなっている事は周知の事実です。福島県では183人が発症、県外での発症も増えてきている状態です。

放射性ヨウ素は福島県の南側の関東圏に広く流れ、3月23日には金町浄水場で、水道水1kgあたり210ベクレルの放射性ヨウ素が検出されたと東京都が発表し、江戸川区でも乳幼児のいらっしゃるご家庭にペットボトルの水が配布されました。空気からも水からも被曝する可能性は否定できない状態だったのです。

本来は国や自治体が健康を守る対策をとるべきですが、放射線量が高く子どもへの影響が大きいとの危惧から、2013年「関東子ども基金」が活動を開始し、茨木、埼玉、栃木、神奈川、千葉と各地で検診を実施しています。2014年「甲状腺検診ちばの会」が立ち上がり、2016年3月までに延べ540人の検診を行っています。

ホットスポットが点在し、決して低くない線量の江戸川区です。検診の必要を感じて集まった仲間を会を作り、検診実施の方法を探す中、「甲状腺検診ちばの会」の協力で検診できることになりました。

3.11からの数日、子どもが外で遊ぶことを止めたか、何が危険かきちんと判断したのか、放射性ヨウ素が消失するまでの8日（半減期）の行動を振り返ってリスクを把握しなければならないと考えます。是非、受けてみてください。

継続して検診を行っていくために、たくさんの方の力をお寄せいただきたいと思います。当日は医師から検診内容の事前説明会もありますし、見学もOKです。

- 対 象: おおむね6才から24才(相談に応じます)
- 検診日: 4月16日(日曜)第1回10:00/第2回13:30
- 会 場: タワホール船堀 和室1にて受付
- 費 用: 1人当たり1500円程度のカンパ協力(検診経費に充てます)
- ◆申込み・問い合わせ「甲状腺検診えどがわ」
- メール: [kouzyousen.edogawa@gmail.com](mailto:kouzyousen.edogawa@gmail.com)
- ブログ: <http://kouzyousenedogawa.seesaa.net/>

# えどがわ市民発電プロジェクト えど・そら3号機が完成！

山崎求博さん(連絡会世話人)

NPO足温ネット(足元から地球温暖化を考える市民ネットえどがわ)では、このほど再生可能エネルギー売電事業「えどがわ市民発電プロジェクト」3番目の発電所「えど・そら3号機」が発電を開始しました。所有する発電所では最大となる出力28.8kWの太陽光発電所です。市民による無分配型出資、小松川信用金庫からの融資、江戸川区からの利子補給と、地域の力を合わせて建設されました。

建設されたのは、区内中央にある立体駐車場です。住宅地の中にある駐車場なのですが、マイカー所有世帯が減ったためか、2階部分の契約がゼロの状態が続いていました。空き地のまま遊ばせておくわけにもいかないと感じた地主さまからの提案を受け、建設することになりました。

設置業者の見積もりでは発電出力28.8kWで建設費用は640万円でした。kW当たりの建設単価は20万円台前半と比較的安価になり、買取価格が下がったとは言え24円/kWhで全量売電しても10年ほどで回収できる見通しであることから建設を決めました。建設にあたって課題になったのは資金調達です。

すでに1号機および2号機の建設で900万円の借金を抱える同会にとって、これ以上借金が増えることは財政上の大きな負担です。かと言って非営利活動法人であるため、第三者への配当を前提とした出資募集ができません。そこ

で、無分配型出資にチャレンジすることになりました。この出資は「無分配」つまり、①配当を行わない、②元本が保証できない場合もある、とすることで営利性を排除した非営利型出資です。非営利であるため金融商品とは見なされないため、金融商品取引業者＝金融機関を介さずに自分たちで募集することができました。

幸いにして建設費用の約半分にあたる300万円については、地元の小松川信用金庫から融資を受けることができました。融資を取りつけることができたのは、2号機が設置されている高齢者グループホームの建設で同信用金庫からの融資実績を持つ藤居さん(同会理事)が窓口になったこと、1号機および2号機の売電収入の振込先を同信用金庫の口座としたことで売電収入が毎月入ってくることをご理解いただいたことが大きいと思います。

今回の3号機建設は、地域における再生可能エネルギー発電事業の可能性を広げたものと考えています。江戸川区の人たちが貯蓄している信用金庫という金融のしくみによって資金調達に対する負担感が軽減され、大部分を江戸川区民が出資した無分配型出資と相まって、江戸川区内で資金が循環し地域経済に寄与することになるのですから。

見学を希望する方は同会事務局までご連絡ください。  
◆足温ネット E-mail [info@sokuon-net.rog](mailto:info@sokuon-net.rog)



## 甲状腺検診えどがわ

市民の自主運営で甲状腺検診を実施します

2011年3月の福島原発事故から5年が過ぎました。事故の直後には、江戸川区内の乳幼児のいる家庭にペットボトルの水が配布され、水や食べもの、空気に神経を使いました。

この5年間で健康不安の原因はなくなったのでしょうか？現在でも区内に高い線量の場所が見つっています。

チェルノブイリでは5年目以降に小児甲状腺がんが増えました。日本でも増える可能性があるのではないのでしょうか。

小児甲状腺がんの多発が明らかになっている中、福島だけでなく関東各地で自主検診が行われていることを知り、江戸川区でも甲状腺検診を実施しようと会を立ち上げました。

2016.8 発足

### ●会の目的

- スクリーニング検査をすることで、がんの疑いがあれば早期に対応するための一助とする。
- 放射能による健康影響について知らせ、いのちと健康を守る方法をいっしょに考える。
- 国・行政に甲状腺検診の実施を求める。

### ●検診の内容

- 対象者: 2011年3月の原発事故当時18歳以下だった方  
    ◇ (区内在住の方を優先)
- エコー検査: 喉にエコーのプローブ(接触子)をあて動かしながら画像を見て、医師がその場で説明します。検診後、報告書と画像プリントを一緒に送ります。
- 次回検査の際、前回の結果と比較できるようにデータ管理をします。  
    ※ 個人情報とはデータ管理以外に利用しません。
- 当日検診の前に「検診への理解を深めるために」医師による説明を行います。(参加必須)
- ボランティアでの運営のため、受診者一人当たり1500円程度のカンパ協力を求めます。(検診経費に充てます)

### □小児甲状腺がんとは

- 甲状腺: 喉ぼとけ下にある成長ホルモンなどを分泌する器官。ヨウ素を取り込む性質があり、原発事故で放出された「放射性ヨウ素」でがんになる可能性が指摘されている。
- チェルノブイリ事故 10年後に放射性ヨウ素を原因とする疾患としてIAEA(国際原子力機関)など国際機関が事故由来を唯一認めた疾患。
- 政府、福島県: 事故当時福島在住の18歳以下の成長期の子どもに対して甲状腺がん検診を定期的に実施されている。
- 発症率:  
    事故前日本(国立がんセンター統計)100万人に3人  
    事故後福島(県民健康管理調査)3000人に1人

### ●甲状腺検診を実施するために必要なことは

- 問診票・診断報告書等の様式
- 検診会場
- 運営スタッフ
- 検診に協力してくださる医師・技師
- 超音波診断装置(分析用ソフト搭載)

※診断装置他機材貸し出し、医師の紹介、運営協力など検診実施に「甲状腺検診ちばの会」の方にご協力いただきます。

## 講演 沖縄差別と自己決定権

- 日 時 3月30日(木)18:00~20:30
- 会 場 江戸川区総合文化センター2F 会議室
- 講 師 新垣毅さん(『琉球新報』記者)
- 資料代 500円
- 主 催 戦争させない！江戸川総がかり行動実行委員会
- 090-9847-7178 (宮澤) / 090-8745-9241 (小畑)

